［　横浜にぎわい座　］
令和２年度業務報告及び収支決算
［　公益財団法人横浜市芸術文化振興財団　］

※　文中の事業欄において、
●：主催事業。○：共催事業
を示します。
※　文中の達成指標欄において、
□：定量的指標。■：定性的指標
を示します。

1　施設の概要

施　設　名	横浜市芸能センター　横浜にぎわい座
所　在　地	横浜市中区野毛町 3-110-1
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造　地下3階地上13階建の地下2階から地上4階及び地上5階部分の各一部を専有
敷地・延床面積	専有面積　4,358.97㎡
開　館　日	平成14年4月13日

2　指定管理者

団　体　名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所　在　地	横浜市中区山下町2番地
代　表　者	理事長　近藤誠一
設立年月日	平成 3 年 7 月 10 日
指 定 期 間	平成 28 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日まで

3　指定管理に係る業務方針

（1）基本的な方針

【目指す姿、果たすべき役割】

第三期5年間の目指す姿を“大衆芸能が後世に受け継がれ、横浜にぎわい座が市民に愛され、その運営や事業を通じて市民生活や地域を活性化していること”、果たすべき役割を“あらゆる市民に対して、大衆芸能の持つ魅力や可能性を様々な手法を通じて働きかけること”としました。にぎわい座の運営を担うことで、地域の活性化や、特色ある興行を目的とした来浜（＝文化観光）促進などに取り組みます。大衆芸能は世代を越えて共に楽しめるジャンルです。アウトリーチなどを通じて高齢者の健康やコミュニティの活性化に資する事業を開発し、子どもについては学校教育との連携を図ります。大衆芸能はユーモアとニュアンスを含んだ豊かな日本語に触れる機会でもあり、このような特色を活かし、子どもたちのコミュニケーション力の向上や世代間交流にもつなげます。にぎわい座の運営を通じて、大衆芸能を後世に継承し、その豊かな可能性を現代社会に十分に活用していくことで、横浜の魅力を高め、芸術文化を通した市民生活の向上に貢献します。

（2）令和 2 年度の業務の方針及び達成目標の総括

① 文化事業について

6 月までの閉館措置とそれ以降の座席数制限、新型コロナウイルス感染症拡大の懸念から、観客数は大幅な減少となりました。その一方で、生の芸能を楽しみたいという声もあり、環境を整えて可能な限り多くの公演を行いました。タップダンスを中心としたコメディーショー「TAP DO!」公演では新たな観客動員をはかることができ、今後に明るい期待を抱かせる成果をあげました。

オリパラ対応は、外国人観光客の来日が不可能となったため、実施を見合わせました。

冬季の緊急事態宣言により、一旦は 100%定員とした観客数に再度制限がかかり、3 月興行から千鳥配列に戻しました。3 月 21 日に宣言解除となりましたが、感染症についてはその時々の状況に一喜一憂するのではなく、観客の安全安心を第一に、収束が見えるまで座席数の増加ははからないという決意を固めることができたのが最大の成果です。

② 施設運営について

新型コロナウイルス感染症の影響により過年度に比較して利用率、利用料金収入とも大幅な減少となりました。一方、昨年度新たにスタートさせた毎月前半の芸能ホールを大衆芸能公演に提供する取り組みを活用し、8 月より 12 月まで合計 5 公演、人気落語家の桃月庵白酒による独演会を開催できたことは今後の利用促進活動に向けた大きな成果となりました。

年度を通じて感染症対策に重点を置き、ガイドライン等の迅速な発信や丁寧な説明、催事開催の支援、利用時の感染症対策の徹底などに努め、利用者の安心感向上に努めました。

③ 施設管理について

昨年度末より始まった新型コロナウイルス感染症に対するさまざまな対策に尽力しました。お客様の安全安心を最優先に考えて他施設に先駆けて取り組んだ三月興行(昨年度)より六月興行まで約 100 公演(今年度約 70 公演)の主催事業中止・延期をはじめ、ガイドラインに基づく来館者・スタッフの検温・消毒体制構築や必要物品の確保、公演チケット購入者や施設利用者に対する迅速で丁寧な対応、事務処理のない多数の払い戻し作業、利用者に対する支援、出演者や施設勤務者の安全確保など、ときどきの状況に応じた多岐にわたる諸策を講じました。

施設修繕については、空調設備修繕など感染症対策に必要な案件を優先して実施しました。

④ 収支について

入場料収入や利用料金収入が大幅に減少し、施設単独では収支バランスを取ることが困難となりました。主催事業の収益によって施設全体の収支バランスをとっている横浜にぎわい座にとっては、特に入場料収入の減少が施設全体の収支に与える影響が大きい点が、以降の課題として顕在化しました。今年度の収支については感染症の影響額に対する横浜市からの補填や、感染症対策に関わる文化庁からの補助を得ることでバランスを保ちます。感染症の影響がある程度残ると予想される次年度以降の収支バランスを保つため、これまでにない徹底した経費節減策の立案・準備を進めました。

4　業務の取組と達成指標

(1)　文化事業について

ア　大衆芸能の公演、講座その他の事業の企画及び実施

［目指す成果］

・毎月 1 日から 15 日の経常公演を、これまでの実績を活かして確実に実施し、事業の基軸とします。寄席形式公演「横浜にぎわい寄席」は、様々なタイアップや団体誘致を行い、落語や寄席に馴染みのない層にアピールして、観客数の増加に繋げます。

・「名作落語の夕べ」は月ごとのテーマ設定及びリピート鑑賞に向けたサービスを継続し、観客の興味を一層促していきます。

・所属団体・流派の垣根を越えた実力者、人気者によるバラエティ豊かな出演者による公演を行うことで、市民の大衆芸能に対するニーズに応えます。

・若手出演者の育成を継続的に実施し、「将来の名人を育てる道場」とします。

・学校教育と連携し、大衆芸能の鑑賞・体験を通じて、子どもの創造性や感性を育むとともに、教育現場に関わる人々に働きかけます。市民に向けては大衆芸能ファンに限らず幅広い層に当館を知っていただき、将来の観客創造につなげます。

［成果の振り返り］

感染症拡大防止のため、団体誘致や学校教育との連携など実施に至らなかったものも多かったのですが、臨時閉館中の経常公演は順延などを行い、できるだけ開催しました。またバラエティ豊かな出演者の公演や若手出演者育成も例年と変わらず行うことができました。

［取組内容］	［達成指標］	［実施内容と達成状況］
◇幅広い大衆芸能の演目の多彩な構成による魅力的な公演等の企画・実施		
経常公演	経常公演	
① 毎月1日から15日まで芸能ホールで自主事業を連日開催	□年間 200 公演以上開催。	□年間 170 公演開催 4-6 月臨時閉館のため、 9 か月の開催数（以下同じ）
② 所属団体・流派等に捉われないバラエティ豊かな出演者により、市民ニーズを満たす公演内容	□合計入場者　月平均 3,500 人以上。	□月平均 1,835 人
●「横浜にぎわい寄席」(毎月7回) 落語と多彩な色物で寄席の芸と雰囲気を気軽に楽しめる公演。各種割引や子ども料金をＰＲし、新しい観客を招へい	■みなとみらい地区の企業など団体誘致とファミリー層に向けてのPR活動の実施。 □ﾁｹｯﾄ販売数　平均 120 枚以上。 □「こども寄席」年間 2 公演開催	■二度にわたる緊急事態宣言発令のため、活動できず。 □チケット販売数平均 27 枚 □開催なし（4 月は休館中、8 月は感染症拡大防止のため内容変更）

●「名作落語の夕べ」(毎月1回第一土曜日) 古典落語を4人の演者がネタ出しで口演する、落語の名作をじっくり楽しめる公演	■三遊亭圓朝作品特集、江戸庶民の生活を探る公演、埋もれた名作の上演など、名作の会ならではの企画性のある公演を毎回実施。 ■同じ席で鑑賞できるシリーズ券を先行販売し、「名作落語の夕べ」ファンの定着を図る。 ■人気と実力を兼ね備えた演者による公演を積極的に実施。 □ﾁｹｯﾄ販売数　平均150枚以上	■４～６月は緊急事態宣言発令のため、中止となったが、他の月は企画内容を変えて実施。 ■春夏セット券31枚販売。４～６月は休館中止、７～９月はコロナ対応の為座席振替で実施。秋冬セット券については感染症拡大のため販売中止。 ■10月柳家さん喬、11月古今亭志ん輔、１月柳亭市馬などがトリで出演。 □チケット販売数平均93枚
●企画公演(毎月8回程度) 落語・漫才・コントから音楽ショウ、民謡等まで、幅広くバラエティに富んだ大衆芸能公演を日替わりで開催	■気軽にグループで来場できる昼公演、じっくり堪能する夜公演の独演会など、「にぎわい座ならでは」「にぎわい座らしい」公演を連日開催。 □実力ある若手を登用する公演を年20回以上開催。	■観客の年齢層が高い民謡、喜劇は開催できず。他ジャンルは幅広く行う。 ■年27公演開催
◇創造的で発信性のある取組みの実施 ①創造・挑戦的な取り組み ●企画公演(毎月8回程度)…再掲 ネタおろし、名作の継承や新作発表など演芸界を活性化させる公演の実施開催。関東で上方落語を定期的に楽しめる場として認知されている、にぎわい座ならではの上方落語の公演を積極的に行う。	■日本の伝統的な大衆芸能を紹介する企画公演を開催。 ■将来性のある新真打の披露公演。 ■タップダンスや音楽芸を中心とした新しい形態の演芸会の開催。 □上方落語公演を年間10公演以上開催。	■1/4「新春特選　ニッポンの芸！」で和妻、水戸大神楽を紹介。 ■三遊亭楽大、柳家権之助等5名5公演実施。 ■3/21 タップダンス・コメディーショー「TAP DO!横浜公演in横浜にぎわい座」を開催。 □12公演開催。

●のげシャーレ公演 小ホールの小劇場的空間を活かした落語、漫才、コント、音楽ショウなどの公演や異色のコラボレーションなど	□年間 10 公演以上開催。	□年間 15 公演開催
●近隣文化施設や団体との連携による新しい舞台作品の創造	■みなとみらいホール、赤レンガ倉庫などと「芸術創造特別支援事業」に参加。	■事業そのものがなくなり、未実施。
◇若手実演家育成の仕組作りと実践		
●「登竜門シリーズ in のげシャーレ」 小ホールで開催する若手芸人が研鑽を積むシリーズ公演	□年間 20 公演以上開催。 □入場者数平均 100 名以上。 ■芸能ホール進出実現のためのサポートを行っていく。	□年間 16 公演開催 □入場者数平均 70 人 ■定員制限のため、一部を芸能ホールで開催。コロナ禍で観客数が減少しても、奮闘している若手のサポートを実施した。
○登竜門シリーズ卒業生等の活動をサポートする「にぎわい座共催公演」を引き続き、実施	□年間 2 公演以上受け入れ。	□卒業生の自主活動がなく、未実施。 ■次年度の準備・チケット発売を行った。
◇鑑賞者の拡大を図る取組、事業を支える仕組みの構築		
●市民ニーズの把握と公演および施設運営への反映	□全公演でのアンケートの実施。	□感染症防止対策の為、アンケート配布の中止。2 月より、WEB アンケート実施。
●観客創造事業「趣味をテーマの演芸会」 鉄道、野球といった趣味をテーマにした演芸会を行い、観客層を広げる。	□参加者 80 名以上、	□2 公演実施、入場者数平均 140 名。

●貸切公演 団体からの要請により貸切公演を開催。新規顧客を開拓し、リピート鑑賞につなげる	□貸切公演4回以上開催、 □主催者の満足度4以上 （5段階評価）。	□学校関連の貸切公演 3 回開催、1 回中止。 □学校関連行事での利用のためアンケート実施せず。
●にぎわい会員 チケット購入用の会員制度	□にぎわい会員登録数 19,000 人達成。	□20,934 人
◇市民の大衆芸能に関する学習活動や創作活動支援		
●寄席文化体験 寄席文字や大神楽曲芸など寄席に因んだワークショップ	□「橘流寄席文字講座」「大神楽曲芸体験教室」などの開催。 受講者計 70 名以上。	□受講者数 35 人
	■要請に応じて企業や教育機関と連携した講座を実施。	■NHK 文化センター横浜ランドマーク教室からの要請で講座（レクチャー&バックステージツアー付公演）を実施。次回以降の実施についても打診あり。
●トリエンナーレ参加、紙切り芸公演	□入場者 80 名以上	□9/26「林家楽一　紙切りの世界」入場者 43 人
○「野毛まちなかキャンパス」 野毛やその周辺の魅力を掘り起こす社会人向け大学講座に大衆芸能のコンテンツで参加。野毛地区街づくり会、横浜商科大学との共催事業	□講座の共催開催 2 回以上、 □会場提供 3 回以上、 □職員の講師派遣 2 回以上。	□開催中止 □中止 □中止
●バックステージツアー 普段知る機会の少ない舞台裏を、寄席を楽しむミニレクチャーを交えて紹介	□一般向け（子ども向け） 2 回以上。 □団体向けオンデマンド開催 4 回以上。	□感染症拡大防止対策の為実施せず □NHK 文化センター横浜ランドマーク教室の講座として 1 回開催。

●アウトリーチ 施設への来館が難しい方向けや個性的なロケーションでの実演で大衆芸能の楽しさを届ける館外活動。「笑いは健康の源」を重点テーマに、NPO 等と協働で実施	□若手芸人の起用 3 回以上、 ■市民サポーター協働のモデル事業としての実施。 ■「みどりアートパーク寄席」など個性的なロケーションでの演芸会の実施。	□2 公演 3 名起用 ■実施（8/29 にしよこ寄席） ■公演中止（本郷ふじやま公園出前寄席）
◇子どもの創造性育成の取組み		
○寄席体験プログラム（6 回） 近隣の小学生が落語鑑賞と寄席独特の鳴り物などを体験する公演。公益社団法人落語芸術協会との共催事業	□6 月､10 月の 2 期に分けて開催。 ■本事業を通じた学校との情報交換、「こども寄席」などのＰＲ活動など連携実施。	□6 回。6、10 月は中止となったため、12、1 月に臨時開催。 □実施なし。
○横浜市芸術文化教育プラットフォーム 「学校プログラム」 市立学校に出かけて行うアウトリーチ事業	■要請に応じてコーディネート実施。	■4 校実施（荏子田小、瀬谷さくら小、牛久保小、平戸小）
○教育委員会、教育機関との連携事業	■要請に応じて実施。アウトリーチ、大衆芸能を主題にした研修会など。	■要望なし

イ　大衆芸能に関する情報の収集及び提供

［目指す成果］

・大衆芸能に関する多様な情報を収集し、適切に提供することで大衆芸能の魅力を広く伝えます。この分野の専門施設として相談や各種照会に対応し、市民ニーズに応えます。

・自主事業広報は、公演毎に訴求ターゲットを意識してデザインや使用ツールを改訂し、新たな鑑賞者やファンを獲得します。

・展示事業は、大衆芸能を紹介するものに加え、施設との連携も交えて実施し、より多くの市民に足を運んでいただく機会とします。

［成果の振り返り］

お客様の来館を制限し、受付の混雑回避のための待機列を設置せざるを得なかったため。展示事業を積極的に行うことはできませんでしたが、ホームページを活用することによる大衆芸能の情報提供や広報は幅広く行うことができました。

［取組内容］	［達成指標］	［実施内容と達成状況］
情報収集および提供		

●公演情報の収集 大衆芸能公演や市内の文化事業のチラシ、ポスターを配架	■常に新鮮な情報が得られる配架方法を進める。 ■町内会、野毛ちかみち掲示板を活用し通行人に向けて、にぎわい座の楽しみ方を紹介。	■実施 ■掲示チラシのデザインを掲示板仕様にアレンジするなど、より親しみやすい形態で実施。
●公演情報の活用 企画公演等、過去の公演情報の活用	■電子大福帳にすべての公演情報を入力することを引き続き行う。 ■出演者経歴、演目解説など大衆芸能公演のアーカイブ化と継承を継続して行う。	■実施（名称は「電子根多帳」に変更。） ■実施
●情報提供、相談対応 専門施設として外部からの相談に対応	□催事開催に関する相談対応や出演者の紹介などのコーディネート 30 件以上。	□14 件
広報		
●広報、ホームページ、情報発信チラシ、ポスター、ホームページ及び SNS 等により、公演情報を提供	□にぎわい会員を対象にメールマガジンを年間24回以上配信。 □Twitter を年間 400 回以上配信 ■Twitter は公演情報や業務案内だけでなく、近隣施設のイベント情報や大衆芸能に関するミニ知識、終演後に公演の様子を伝えるなど多彩な内容で配信。 ■チラシは公演やシリーズごとに訴求対象を明確にし、それに合わせた仕様を採用。特に落語未経験者を意識した掲載内容を考慮する。 ■財団の広報・ACY グループと連携したプレスリリースの実施。 ■新聞記者など識者に公演を見てもらい、その感想を広報に活用。	□メルマガ 38 回配信 □Twitter781 回発信 ■近隣施設のイベント情報、大衆芸能に関するミニ知識、終演後に公演の内容を伝えるなど多彩な内容で配信。 ■実施 ■PRTIMES 8 回配信 ■若手演者の公演を中心に、神奈川新聞に告知記事を掲載

●メディア懇談会 記者や編集者を対象にした懇談会を開催し、活動を紹介する	□メディア懇談会　1 回以上開催。	□感染症予防のため中止。
展示事業・館内演出		
●展示事業 2 階展示コーナーで常設展、企画展を開催	□企画展として「中島修展」のほか、手拭い展、写真展や寄席文字展など 4 回以上開催。 ■伊勢佐木町のかつての劇場街紹介や当館の過去の公演紹介、出演者紹介などの常設展も解説や展示方法を改訂し、展示の質を向上。	□感染症予防のため中止。 ■感染症予防のため中止。
●館内装飾 エントランス他に季節の装飾を行い、来館 の楽しさを高め、ホスピタリティを向上	□季節の館内装飾は年間 10 回以上展示替え。	□毎月テーマを決めて実施。9 回（4-6 月臨時閉館）

ウ　街のにぎわいづくりへの寄与

［目指す成果］ 地域の活性化を目的に、「野毛地区街づくり会」ほか地域の団体の活動に協力し、街のにぎわい創りに貢献します。 ［成果の振り返り］ のげ茶屋の営業休止をはじめ、感染症対策の一環として飲食物が関連する取り組みの殆どが見送りとなりました。「にぎわい座利用促進委員会」(野毛地区街づくり会傘下)との定例共催事業である野毛大道芸、敬老会、カラオケ大会も、街づくり会の判断で中止となりました。それぞれの取り組みの開催是非の判断にあたっては、街づくり会と丁寧な意見交換を行い感染症終息後も視野に入れた協議を継続しました。		
［取組内容］	［達成指標］	［実施内容と達成状況］
○野毛地区の飲食、物販業と連携したプロモーション活動	■野毛地区飲食業協同組合の「野毛手形」（飲み歩きクーポン）に参加。	■MICE 連携と野毛周遊を目的とする「野毛手形」は、コロナ禍の影響で企画されなかった。
○公演鑑賞と飲食の楽しみで相乗効果を図る取組の実施	■野毛地区飲食業協同組合と連携し、芸能ホール公演時に「のげ茶屋」営業。	■7～9 月のみ営業。 ■4～6 月の臨時閉館、10 月以降の館内飲食禁止より協議し、営業を休止。

○野毛地区主催のイベントへの協力	■野毛地区街づくり会内設置の「にぎわい座利用促進委員会」との共催事業の実施。 ■野毛大道芸など地域主体のイベントへの協力。	■集客することが難しく、動画配信で実施した「アジアいちご基金寄席」のみ実施。 ■野毛大道芸は2度延期したが今年度は中止。 1/24 芸能ホールで次年度のプレイベントを開催。
●MM21 地区からの誘客	□MM21 地区の就業者の交流団体向けにイベントを実施し、野毛への誘客を実現。イベント実施2回以上。	□コロナ禍の影響で実施せず。

エ　市民と大衆芸能をつなぐ取組

[目指す成果] 地域に根差した施設として、意欲ある市民の方に支えていただくとともに、多様な分野の市民団体やNPOとの協働により、魅力やホスピタリティにあふれ、また多方面からのアクセシビリティを実現する施設運営を行います。 [成果の振り返り] 感染症対策においては、来館者の検温消毒から誘導まで、日常業務に基づくにぎわいスタッフからの提案を活かすことにより、より的確に対応策を立案実施することができました。市民団体やNPOと協働したアウトリーチ活動や職業体験等は、予定していた多くの取り組みを、感染症の影響で見送りました。		
[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
●にぎわいスタッフの力を活かした施設運営	□にぎわいスタッフの声を活かすために、改善提案アンケートを年2回以上実施。	□研修での意見交換やアンケート、日々の業務のなかでの提案を受け、状況に合わせて公演や貸館業務を改善。10回以上。
●市民サポーター、市民団体、NPOとの協働	■チケット販売促進プロジェクトの推進。	■臨時閉館中の公演のためキャンセル（1回）
	■アウトリーチにおける協働、オリパラ関連事業における広報の外国語対応。事業における逐次通訳。	■アウトリーチ；にしよこ寄席 ■オリパラ関連； オリパラ延期のため未実施
●職業体験、アートマネジメント実習	■学校や学生からの要望により積極的に受け入れ。にぎわい座ならではの体験の場を提供。	■要望なし

オ　都市戦略および他施設との連携

［目指す成果］
市内で開催されるフェスティバル事業等に積極的に参画します。にぎわい座の舞台芸術分野におけるポテンシャルやユニークネスを十分に活用し、他の施設や組織と協働で事業を実施することで、横浜独自の魅力ある事業の国内外への発信に取り組みます。
［成果の振り返り］
感染症拡大により、様々な事業展開をすることができませんでした。

［取組内容］	［達成指標］	［実施内容と達成状況］
都市政策・施設連携事業		
●横浜芸術アクション事業「トリエンナーレ」への協力	■実行委員会からの要請に合わせて、連携企画、広報協力などを実施。	■要請なし。
●2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会関連企画	■伝統芸能に目を向けてもらう機会が増えるので、外国人を含む幅広い層に大神楽曲芸を知ってもらう講座を実施…再掲。	■オリパラが延期となり、外国人観光客の訪日も難しいため、未実施。
	■みなとみらいホール、赤レンガ倉庫などと「芸術創造特別支援事業」に参加。	■事業中止
○「横濱ジャズプロムナード 2020」運営協力	■会場運営チーフに職員を派遣。	■規模縮小により、職員の派遣要請なし。広報協力を実施。
○「横浜ダンスコレクション 2021」のげシャーレ公演共催	■会場提供、運営支援、広報協力を実施。	■海外出演者の来日が難しく、当館については開催期間を短縮して実施。
●修学旅行や横浜遠足での鑑賞機会提供	□修学旅行、横浜遠足等の鑑賞会 3 件以上。	□3 件実施、1 件中止。

(2)　施設運営について

ア　大衆芸能等の公演、練習、創作その他の活動のための施設の提供

［取組内容］	［達成指標］［実施内容と達成状況］
① 基本的な施設の提供	■開館予定日数・時間

開館日数	342 日（月 2 回　施設点検で休館）
開館時間	10 時～22 時

■利用料金について（平日、入場料無料時）

	10:00～12:00	13:00～16:30	17:30～22:00
芸能ホール	25,600	44,800	70,400

	10:00 ～12:00	12:30 ～14:30	15:00 ～17:00	17:30 ～19:30	20:00 ～22:00
小ホール	7,700	7,700	7,700	9,600	9,600
練習室	1,300	1,300	1,300	1,600	1,600
制作室	900	900	900	1,100	1,100

［取組内容］	［達成指標］	〔実施内容と達成状況〕
② 利用料金の改訂	■芸能ホール・小ホール リハーサル利用時 50%割引（継続）。 ■受益者負担の見直しを行う ゴミ処理費用の新設	■リハーサル利用時の 50%割引を継続実施 ■コロナ禍で 50%定員をお願いするなか、負担増となる料金新設は見合わせた
③ 貸館の運営体制	■職員 1 人を貸館メイン担当とし、舞台技術スタッフとともに公演打合せや利用相談をきめ細やかに対応する。 ■舞台技術スタッフは芸能ホール 3 人、小ホール 1 人配置を基本とするが、利用状況に応じて小ホールも 2 人に増員して安全管理を行う。 ■舞台技術スタッフの統括責任者は経験 10 年以上、他のスタッフについても経験 5 年以上の者とする。	■貸館担当者（メイン 1 名、サブ 1 名）体制。 ■達成指標の人員にプラスして、初利用の場合は舞台スタッフ 1 名専任で対応。 ■統括責任者は経験 30 年。他も条件を充足。
④ 要望・苦情への対応	■貸館に関する要望、苦情は、すべて支配人・館長まで報告する。 ■内容によって財団事務局や文化観光局に即時に報告。	■のげ茶屋休業、マスクの着用に関する苦情、臨時閉館、チケット払戻に関する苦言あり。 ■事務局等に報告が必要な事案はなし。

イ　利用促進及びサービスの向上、アイディア・ノウハウの一層の活用

［取組内容］	［達成指標］	［実施内容と達成状況］
① 利用率の向上	□目標利用率 芸能ホール：80%　小ホール：70% ＊利用可能日に対する稼働率。 練習室：80%　制作室：60% ＊利用可能時間帯に対する稼働率。	□利用実績 芸能ホール：52%小ホール：33% ＊利用可能日に対する稼働率 練習室：32%　制作室：19% ＊利用可能時間帯に対する稼働率

		□新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4～6 月を臨時閉館。緊急事態宣言に伴い、夜公演がない日は 20 時閉館短縮営業。
② 利用の促進	□大衆芸能普及と振興のため、主催興行期間に、芸能ホールで協力事業を募集。　　年間　12 公演	□「月刊白酒寄席」5 公演 8/13、9/3、10/6、11/2、12/11
	■若手芸人の育成のため、公演開催を支援する「にぎわい座共催公演」の開催…再掲。	■令和 3 年 4 月開催に向け準備
	■小ホールでの演劇・ダンス等の公演誘致 演劇やダンスによる施設活用方法を分かりやすく発信するとともに、仕込みやリハーサルで複数日必要な公演が実現できるよう営業し公演誘致する。(先押さえ共催)	■状況により利用ガイドラインが都度改訂された。ソーシャルディスタンスの確保、マスク着用等、感染症対策を講じながら演劇・ダンス公演を開催することが難しく、誘致を見合わせた。
	□土日祝日の施設空き情報をホームページ、SNS で案内。　　1 回/月	□抽選会後、土日祝日のホール空き情報をホームページで 16 回案内。
	■利用希望者の施設見学、随時受け入れ。	□見学受け入れ 19 件
③ 1 階エントランスの活用	■地域のインフォメーションに活用 野毛大道芸、のげやまくん 通年実施	□野毛大道芸等地域のイベントが無くなった。「のげやまくん」情報を通年掲出。
	■大口購入者のチケット受渡し所等、要望に応じて第 2 の受付に活用。	■要望に応じて、当日チケット引換所や受付等にスペース提供。
	■公演開催時以外にも 1 階エントランスロビーにスタッフを配置する時間帯を設け、よりお客様が入りやすい演芸場を目指す。	■営業再開～12 月まで、10 時～20 時に常駐して、検温・手指消毒の案内、マスク着用のお願いを行った。
④ 3 階売店との連携	■売店と連携し、利用者の要望に応じた公演時の売店営業や弁当等の手配を仲介。　　通年実施	□書籍等グッズ、ソフトドリンク、飴のみ販売　7～9 月
	■地元飲食店組合協力による特製弁当の提供	■臨時閉館、館内飲食禁止に伴う営業停止の話し合い
		■依頼に応じて、出演者ケータリング用のみ提供

⑤ 第三期の、新たな貸出プラン	□撮影での貸出　　年2回以上。 ■貸出施設以外についても料金を設定し、対応（継続）。 50,000円/3時間 延長20,000円/時間	□撮影利用10回。映画、CM撮影 □経常公演中の芸能ホール活用は要望なし。次年度の問合せ・ロケハン対応を行った。 □要望なし
⑥ 第三期の新たな利用者サービス	■貸館公演サポート業務を充実させ、広報する 大判ポスター・チケット印刷、表方業務の受託	□表方スタッフ配置　6件 チケット作成　1件

ウ　組織的な施設運営

［取組内容］

① 第三期提案の実行と課題解決を実現する適材適所の配置

［達成指標］

■人材の配置

項　目	人数	備　考
館長・ﾁｰﾌﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ	1人	グループ長
支配人	1人	グループ長
チームリーダー	1人	管理1
担当リーダー	1人	事業1
職員	5人	管理3、事業2
アルバイト	2人	2人2ポスト
公演表方チーフ	1人	1人1ポスト
にぎわいスタッフ	30人	最大予定人数

［実施内容と達成状況］

項　目	人数	備　考
館長・ﾁｰﾌﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ	1人	グループ長
支配人	1人	グループ長
チームリーダー	1人	管理1
担当リーダー	1人	事業1
職員	5人	管理2、事業3
アルバイト	2人	2人2ポスト
公演表方チーフ	1人	1人1ポスト
にぎわいスタッフ	27人	

② 施設の安全管理を実現するシフト配置

■勤務体制は各 2 人以上のシフト制とし、主催事業や貸館状況等に応じて職員・スタッフの人数を配置する。

・事務室

A 勤務（ 9:30～18:15）

B 勤務（13:15～22:00）

・受付窓口

A 勤務（ 9:45～13:55）

B 勤務（13:45～17:55）

勤務体制は 2 シフト制とし、主催事業や貸館状況に応じて出勤職員、人数を決定。

・事務室

A 勤務（ 9:30～18:15）　最少2人

B 勤務（13:15～22:00）　最少2人

・受付窓口

A 勤務（ 9:45～13:55）

人数は状況による

B 勤務（13:45～17:55）

	C 勤務（17:45～22:00）	人数は状況による C 勤務（17:45～22:00） 人数は状況による
③ 大衆芸能分野の専門的人材の配置及び育成	■大衆芸能分野のプロデューサーを館長とし、引き続き事業担当職員を専門職員候補として中期的に育成する。	■大衆芸能に造詣の深い館長・チーフプロデューサーの指導の下、登用した専門人材を含む事業制作担当職員4名の専門性向上に努めた。
④ その他の人材育成、チームワーク醸成	■社内外の研修参加や資格取得を奨励。 ■課題を共有し、全スタッフが意見を言える環境づくり。 ■研修やOJTで、窓口スタッフの接客スキル向上を図る。 採用時研修、フォローアップ研修、スタッフ研修	■市や財団主催の研修参加を奨励。バリアフリー研修などに参加。 ■営業再開やガイドライン変更時、コロナ禍での誘導や公演運営、施設貸出、消毒等を、全スタッフで検討し、最新情勢にあわせて改善。 □OJTのほか、再開時運営研修を5回（2回以上参加）、全体研修を2回実施。

エ　個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注など市の重要施策を踏まえた取組

［取組内容］	［達成指標］	［実施内容と達成状況］
① 個人情報保護・情報公開	■「財団の個人情報保護に関する規程」「にぎわい座個人情報取扱マニュアル」を遵守。 ■ファックス送信や郵送の際の、ダブルチェックを徹底。 ■入場券販売やメールマガジン配信に票券管理システムを使用し、紙ベースでの顧客情報保管を廃止。	■新規採用者に対する個別の個人情報研修を実施。全体研修でも全員を対象に研修実施。 ■ファックス送信や郵送の際のダブルチェックは遺漏なく実施。 ■顧客（購入者）情報はセキュリティの高い外部サーバーで管理。払い戻しや受託販売の顧客情報は施錠保管。
② 人権尊重	■人権研修への参加、職場内での研修実施。 □にぎわいスタッフ向け接遇研修実施（年2回以上）	□職員研修で実施。 □2回実施 10/21、2/17
③ 環境への配慮	■施設の利用状況を細目に確認しながらの空調・照明のオンオフ操作による光熱水費の削減。	■必要以外の消灯や天候に合わせた空調の細かい設定、臨時閉館等の短縮営業で省エネを実現。

		□光熱水費　14,270 千円 　前年度比　77.8%(4-6 月臨時休館)
	■ゴミ処理有料化等の新規取組により、ゴミの軽減と持ち帰りを促進。	■ゴミ処理有料化は来年度以降に持ち越し。
④ 市内中小企業優先発注	市内中小業者への発注率 □備品・消耗品購入　90%以上 □修繕・備品の買い替え　90%以上 □印刷物　80%以上	□備品・消耗品購入　24% □修繕・備品の買い替え　25% □印刷物　100%

(3)　施設管理について

ア　施設及び設備の維持保全及び管理

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
① 施設及び設備の維持保全及び管理	■建築設備、舞台設備の施設保守管理業務項目一覧に明記した保全管理及び点検の遺漏ない実施。 ■委託業者により設備系及び消防系の目視点検を毎日実施。 □設備の不具合による施設貸出停止ゼロ。 □来館者アンケートの施設快適性評価　4 以上(5 点満点)。	■保全管理、点検は遺漏なく実施。 ■臨時閉館した 4～6 月点検業務の一部を延期し、営業時期に実施 ■委託業者による設備系、消防系の目視点検は毎日実施。 □設備の不具合による施設貸出停止ゼロ。 □コロナ禍によりアンケートの収集を取止めていたが、2 月からオンライン形式で試行実施
② 小破修繕の着実な実行	■優先順位を的確に判断しての修繕、更新の実施。	□●件●円の修繕、更新を実施。

イ　事故防止体制・緊急時（防犯）の対応・感染症対策等衛生管理

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
① 事故防止対策、緊急時（防犯）対応	□施設管理者有責による人身事故ゼロ。 ■スタッフ及び委託業者による巡回を実施し、建物や設備の不具合、危険を早期に発見し、適切に対応。 ■主催事業や施設の利用状況に合わせ、楽屋管理口ににぎわいスタッフが常駐し、開施錠及び管理を実施。 ■ケアの必要なお客様来場時には、スタッフが連携をとって見守り、適切な距離感で補助を行う。	□施設管理者有責による人身事故 0 件 ■巡回や監視カメラによる点検・モニタリングを適切に実施 ■朝礼でその日のスケジュールに合わせた楽屋管理口・エントランスへのスタッフ配置を指示 □サービス介助士　2 名在籍 ■OJT、全体研修で情報共有 □3/11　コロナ禍での誘導研修 （バリアフリー研修）

② 感染症対策等	■スタッフ及び委託業者による巡回で、異常を早期に発見。 ■汚物処理は感染症を念頭におき、消毒液を常備して効果的に実施。	□1 日 5 回巡回実施 ■検温・手指消毒が定着するまで、エントランスで有人案内 □エントランス常駐　7～12 月 ■ノロ対策グッズを常備 ■マスク、消毒液等を常備し、公演や利用前後に備品等を清掃 ■よく触れる備品や手すり、スイッチ、ボタン等の抗菌・抗ウイルス加工を実施
③ 緊急時の体制、連絡体制	■シフト勤務の中、予め当日の責任者を明確にして対応。 ■主催事業や観客の多い貸館公演の日は、スタッフを増やして対応。原則としてリーダー以上が出勤。	■シフト作成のなかで責任者の明確化を実施。 ■シフトのなかで実施。

ウ　防災に関する取組

［取組内容］	［達成指標］	［実施内容と達成状況］
① 危機管理マニュアルの整備	■現行マニュアルの検証と法令等に合わせた必要な改訂。 ■天候異常や交通機関の停止にあたっては、休館や開館時間の変更など、施設と利用者、スタッフの安全を確保する対策をとる。	■コロナ禍での横浜市や業界ガイドラインの変更に応じて、都度、施設運営や安全管理、清掃等を見直し、研修 ■緊急事態宣言下では 20 時までの利用とするため、夜公演がない等の日は 20 時閉館とした ■大晦日は終夜運転停止を見越してカウントダウン公演を中止し、クライマックス 2 公演に変更
② 避難訓練	□全スタッフ参加の避難訓練実施 年 2 回以上。	□2 回実施 10/21、2/17
③ 帰宅困難者及び避難者の受け入れ	■災害時等には横浜市の要請に応じ、帰宅困難者一時滞在施設・避難受入施設と同様、避難者の受入れを行う。	□実績なし

(4) 収支について

ア 指定管理料のみに依存しない収入構造、経費削減等効率的運営の努力

取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
① 利用料金収入の確保	□利用率および収入目標の達成 芸能ホール：80%/日 小ホール　：70%/日 練　習　室：80%/コマ 制　作　室：60%/コマ □利用料金収入　21,800,000 円。	□利用実績 芸能ホール：52% 小ホール：33% 練習室：32% 制作室：19% □8,080,930 円
② チケット受託販売	□受託実績　　24 公演以上。 ■催し物案内やHP公演情報の記載やチラシ配架、ポスター掲出で、チケット取扱い公演を PR する。	□受託　15 公演/事業 うち、開催 5 公演 ■催し物案内、HP 公演情報、チラシ配架、ポスター掲出し、チケット取扱いを告知
③ 自主事業収入の増収	□入場料収入 140,000,000 円達成。 □団体販売実績　月平均 5 団体以上。	□55,370,171 円 □団体販売　11 団体/年
④ 協賛金の獲得	□協賛（現物協賛を含む）1 件以上。	□協賛 3 件
⑤ オリジナル商品開発および販売	□来場記念になるグッズ、オリジナル商品販売　200,000 円。 ■地元の老舗洋菓子店とのコラボ商品；お土産マドレーヌ ■画家とのコラボ商品；落語家てぬぐい	□70,893 円 ■コロナ禍でのガイドラインを遵守するため、マドレーヌ販売を中止 ■落語家てぬぐい、大入チケットホルダーを販売
⑥ 経費削減	■入札、見積もり合わせの徹底。 ■計画的なチラシ発送による郵送料の削減。	■入札、見積もり合わせを実施 ■同月複数件の振込がある相手先にはまとめて振込 ■チラシ発送の見直しを行うとともに定期的な送付を行った
⑦ コスト意識	■シフト調整、公演表方チーフ制による業務分担の見直し等による超過勤務削減。 ■超過勤務の事前申請の徹底。	□公演表方チーフ制による業務効率化 ■超勤事前申請による進捗管理を実施

イ　適切な収支構造および収支バランス（別紙のとおり）

（指定管理者が記入する様式）

令和２年度　「横浜にぎわい座」　収支予算書及び報告書

収入の部　　（税込、単位：円）

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	213,940,000		213,940,000	213,940,000	0	
利用料金収入	21,800,000		21,800,000	8,080,930	13,719,070	施設利用料
横浜市負担金収入	0		0	67,207,000	△ 67,207,000	新型コロナ対応補填
自主事業収入	150,385,000		150,385,000	57,792,844	92,592,156	公演チケット収入ほか
国庫補助金収入	0		0	1,400,707	△ 1,400,707	文化芸術振興費（文化施設の感染症防止対策事業）
雑入	648,000	0	648,000	775,271	△ 127,271	
印刷代	8,000		8,000	89,336	△ 81,336	チケット印刷代行、コピー代
自動販売機手数料	84,000		84,000	70,343	13,657	自動販売機売上手数料
駐車場利用料収入	0		0	0	0	
その他（協賛金、事業負担金等）	556,000		556,000	615,592	△ 59,592	「教育プラットフォーム」負担金入ほか
収入合計	386,773,000	0	386,773,000	349,196,752	37,576,248	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	102,357,000	0	102,357,000	97,083,939	5,273,061	
給与・賃金	85,645,000		85,645,000	80,828,941	4,816,059	職員、アルバイト、にぎスタ給与
社会保険料	9,470,000		9,470,000	10,181,009	△ 711,009	
通勤手当	4,372,000		4,372,000	3,609,160	762,840	
健康診断費	70,000		70,000	47,678	22,322	
勤労者福祉共済掛金	50,000		50,000	81,587	△ 31,587	
退職給付引当金繰入額	2,750,000		2,750,000	2,335,564	414,436	
事務費	7,003,000	0	7,003,000	11,059,823	△ 4,056,823	
旅費	120,000		120,000	73,118	46,882	出張費
消耗品費	700,000		700,000	3,714,448	△ 3,014,448	新聞、日常消耗品、コロナ対策消耗品
会議賄い費	0		0	0	0	
印刷製本費	200,000		200,000	114,840	85,160	封筒、名刺
通信費	965,000		965,000	916,119	48,881	郵送料、電話料金、ネットワーク使用料等
使用料及び賃借料	354,000	0	354,000	201,458	152,542	
横浜市への支払分	162,000		162,000	33,921	128,079	目的外使用料（売店、自動販売機等）
その他	192,000		192,000	167,537	24,463	グルーブウエア、セキュリティ対策
備品購入費	200,000		200,000	1,744,050	△ 1,544,050	設備・備品更新、コロナ対策備品
図書購入費	50,000		50,000	0	50,000	
施設賠償責任保険	54,000		54,000	37,240	16,760	
職員等研修費	5,000		5,000	0	5,000	
振込手数料	90,000		90,000	107,140	△ 17,140	
リース料	3,116,000		3,116,000	2,752,103	363,897	PC、印刷機、携帯電話抑止装置等
委託費	112,000		112,000	167,620	△ 55,620	コロナ対策
手数料	350,000		350,000	171,715	178,285	
施設広報費	360,000		360,000	300,163	59,837	施設広告掲載、施設販促物作成
雑支出（渉外費）	227,000		227,000	14,660	212,340	
地域協力費	100,000		100,000	745,149	△ 645,149	町内会費、売店休業補償　ほか
事業費	131,913,000	0	131,913,000	96,928,889	34,984,111	
自主事業費	131,913,000		131,913,000	96,928,889	34,984,111	出演料、広報物制作費、票券システム管理料、販売手数料ほか（4～6月臨時休業）
管理費	108,621,000	0	108,621,000	109,358,030	△ 737,030	
光熱水費	13,728,000	0	13,728,000	14,270,685	△ 542,685	
電気料金	10,200,000		10,200,000	10,542,368	△ 342,368	
ガス料金	2,500,000		2,500,000	2,741,450	△ 241,450	
水道料金	1,028,000		1,028,000	986,867	41,133	
清掃費	10,850,000		10,850,000	10,850,400	△ 400	専有部清掃費
修繕費	2,220,000		2,220,000	3,075,565	△ 855,565	空調機等小破修繕
舞台技術費	23,285,000		23,285,000	22,702,680	582,320	
設備保全費	40,556,000	0	40,556,000	40,437,100	118,900	
専有部管理費	40,556,000		40,556,000	40,437,100	118,900	設備管理費、警備費ほか
共益費	17,982,000		17,982,000	18,021,600	△ 39,600	ビル共用部管理費、害虫駆除費
公租公課	11,789,000	0	11,789,000	11,035,189	753,811	
消費税	11,729,000		11,729,000	10,990,000	739,000	
印紙税	55,000		55,000	24,800	30,200	
その他（法人税、電波利用料）	5,000		5,000	20,389	△ 15,389	
事務経費　（計算根拠を説明欄に記載）	25,090,000	0	25,090,000	25,090,000	0	
本部分	25,090,000		25,090,000	25,090,000	0	（前年度事業経費−事務局繰入金）×7%
当該施設分			0		0	
支出合計	386,773,000	0	386,773,000	350,555,870	36,217,130	
差引	0	0	0	△ 1,359,118	1,359,118	★財団職員の人事異動により、予算より3,964,000円職員人件費が減少している分を含んでいる。そのため施設運営の実質的な収支差額は、▲5,323,118円である。